

## 余部橋梁

あまるべきょうりょう

空高くのびる余部鉄橋の姿を、「無限軌道に接続する宇宙ステーションの構内線路のようだ」と表現した人がいた。ピンときた人は、漫画世代にちがいない。この情景は、松本零士の名作『銀河鉄道999』に出てくる旅立ちの場面だからだ。

機械人間に母を殺された星野鉄郎は、自分も機械の身体を手に入れるため、謎の美女メーテルとともに、宇宙列車銀河超特急999号に乗って、アンドロメダへと旅立つ。出発駅は、メガロポリス宇宙ステーション。列車の本体は、耐エネルギー無限電磁バリアーに守られた超近代的な宇宙列車だが、外観は、なつかしの蒸気機関車。宇宙空間を走っている無限軌道へのアプローチが、空中高く築かれた構内線路……。

空高く築きあげられた線路、その上を走る小さな列車……。余部鉄橋を地上から仰ぎ見た光景は、メルヘンの世界だ。

余部駅には、駅員さんがいない。切符は、ホームの端にある集札箱に入れる。鉄道マニアがよく来るとみえ、ちゃんと写真撮影場所への案内標識がある。

そばには、余部鉄橋の建設メモも見える。設計者は、鉄道院技師古川晴一とアメリカ人技師ポール・L・ウォルフエル。基礎工事は、鉄道工業合資会社。桁と橋脚とでは、製作会社がちがっている。桁部分は東京石川島造船所で製作して現地へ陸送し、橋脚部分はアメリカン・ブリッジ社が製作したものを輸入、余部沖で、<sup>はしけ</sup>舢に移して、陸揚げした。

山陰本線の敷設では最大の難工事で、この鉄橋の完成により、山陰本線の事実上の開通になった、といわれる。着工は、明治42年（1909）12月。竣工は、3年後の45年2月。工事費は、およそ33万円。

高さ41m、長さ309mの規模は、当時東洋一を誇った。橋脚の高さでは、現在も日本一の鉄橋である。高さ41mは、約10階建ての建物に相当する。この高さから下の集落を見おろしたときの眺めが、またスリリングだ。

線路の脇には、保線用の通路と柵とが設けられているが、車窓からガラス越しに見たときは通路も柵も見えず、足元に民家や畑が見えるだけ。まるで列車が空を走っているような錯覚に陥る。無限軌道へのアプローチも、こんなものかと思う。

橋の下には、余部の集落がある。橋下というと、ふつう暗い感じがするが、ここ余部の集落はちがっていた。橋脚が高くて、単純なトラス構造であるためか、見上げたとき、圧迫感や威圧感を感じられず、スカッと空が大きく開けていたのが印象的だった。〔IT〕

開通年月：明治45年（1912）3月1日

鉄道名・線名・駅間：JR西日本 山陰本線 鎧-<sup>よろい</sup>余部間

所在地：兵庫県香住町

河川名：長谷川

橋長・単複の別：309.424m（橋台前面間長）、単線

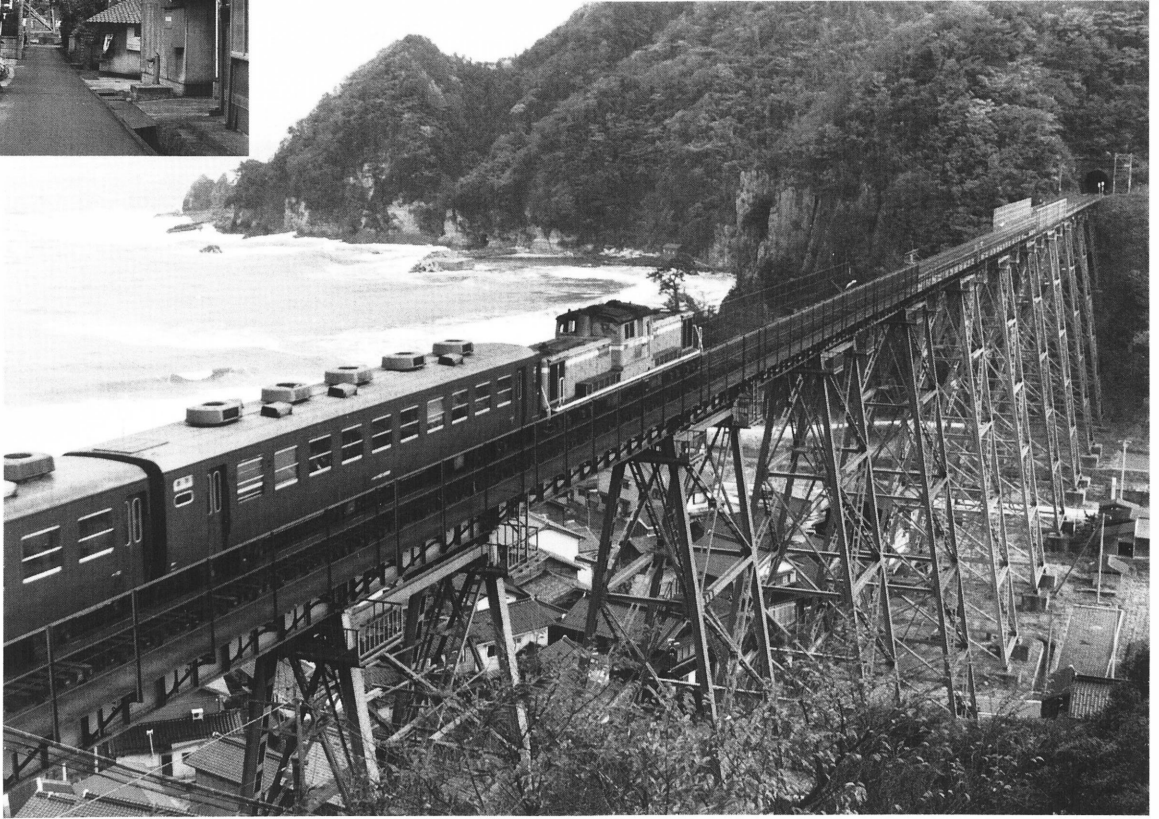
径間数・支間長：全23連、（第1連）1×9.677m、（第2～23連）11×（9.677m+19.025m）

（偶数連は橋脚上の桁である）

形式：上路プレートガーダー、トレススル橋脚



空高く列車が通る。



余部鉄橋の代表的なアングルだ。

〈1986年11月，撮影・共に伊東 孝〉

